

## 関西支部学術大会報告レポート

平成22年11月13日(土)、14日(日)に、関西支部学術大会が、前田芳信支部長を大会長として大阪府豊中市の千里ライフサイエンスセンターにおいて開催されました。本学術大会では、特別講演、生涯学習公開セミナー、一般口演13題、ポスター発表8題、専門医申請ケースプレゼンテーション3題の発表があり、280名の参加者を得て活発な討議が行われました。

田中昌博先生(大歯大)による特別講演「咬頭嵌合位を診る」では、これまでの研究成果から得られた咬合接触の評価法を中心に、先生が長年取り組んでこられた咬合の評価法の臨床的の意義を分かりやすく解説されました。また、武田孝之先生(東歯大口腔インプラント科)による生涯学習公開セミナー「欠損を拡大しない補綴を目指して—欠損補綴におけるインプラントの役割—」は、欠損補綴におけるインプラントの役割を残存歯の保存すなわち更なる欠損拡大の抑制と患者の口腔機能回復ひいては健康増進の二点に焦点を当て、特に長期経過症例をもとにした解説がなされ示唆に富んだ内容でした。

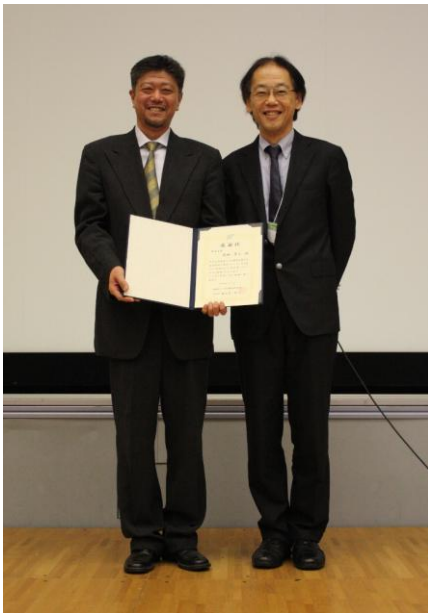
そして何よりも、13日に行われた懇親会を兼ねたナイトセッションは、会場の定員一杯の100名の参加者を得て、前田照太先生(大歯大)と小野高裕先生(阪大)の軽妙洒脱な司会のもと、少々アルコールも入ったこともあって、和気藹々とした楽しい会になりました。大歯大と阪大の6つの教室が、研究、臨床、教育の最新のトピックを発表しましたが、参加者それぞれがひとこと言いたい(大阪弁で「いっちょかみ」と言います)精神を大いに発揮し、しばしば脱線した質問や、発表とは関係のない主張が飛び出し、大いに盛り上がりました。



①



②



③



④

1. 特別講演の田中昌博先生(大歯大)
2. 生涯学習公開セミナーの武田孝之先生(東歯大)と前田芳信支部長
3. ナイトセッション司会の前田照太先生(大歯大)と小野高裕先生(阪大)
4. 当教室の先生方